

令和6年司法試験合格体験記

令和6年度在学中受験（既修コース）川原 生寛

既修20期の川原生寛と申します。私は他学部出身であり、学部3年時から法律の勉強を始め、岡山大学法科大学院に入学しました。

私が司法試験に合格できたのは、これまで支え続けてくれた家族や友人、手厚いご指導をしてくださった先生方、共に高め合った学友をはじめ、多くの方々の存在があったからです。この場を借りて深く感謝申し上げます。

僭越ながら、以下において、司法試験合格までの過程で私が意識していたことを2点述べさせていただきます。

1点目は、自分のスタイルを確立することです。一口に司法試験勉強といってもそのやり方は各人各様です。予習・復習の割合、適した勉強時間・場所、勉強方法、休息等、自分に合致するものを選ぶことが非常に大切だと思います。私は自身の極めてマイペースな性格上、予習はほぼせず、集中できる深夜に主に起案し、勉強場所も自習室、喫茶店等4箇所を気分によって変えていました。勉強方法は1人で授業形式で話しながらその日の学習内容を整理し、理解している部分、理解したつもりになっていた部分をまとめる方法を取りました。また、土曜日の夕方から月曜日の朝までは趣味や人と会う時間にして、法律の学習が興味の対象であり続けるための環境作りを常に意識しました。自分の性格・行動等を良く理解した上で、自分の方法を探ってみてください。

2点目は、学習内容に優先順位を付けることです。最短で司法試験受験まではロー入学から約1年3ヶ月であり、短期間で8科目を揃えなければなりません。そのため、私は全科目受験までにやる内容、合格後にやる内容で分けていました。具体的には、法律論であれば教授や仲間にどの程度の理解が必要か、どの程度理解しているかを聞き、妥協点を決めていました。論証についても重要度の高いもの、頻出のものについては、精度の高い論証に修正し、その他は論証集そのままもしくは、短文化して暗記するなど、相対評価である司法試験において必要十分な範囲での勉強を意識しました。過去問や演習本の問題選定等も重要度に差はあるため、必要なことが何かを考えてこなしてみるといいと思います。

最後に、岡山大学法科大学院は合格に向けたあらゆる環境が整えられています。環境を存分に利用して、皆さんが司法試験に合格されることを心より願っております。